

「いよいよ貫通型多孔粒子事業が動き始めます。」

「従来の粒子に比べて大きな孔が連続してつながったモノリス構造の分離媒体で生産性は非常に高い。分離性能が高く抗体医薬品など新薬開発・量産に最適だ。2017年は量産の準備が整い、世界の化学や製薬会社に向けて提案を本格化する。『貫通型元年』となる。」

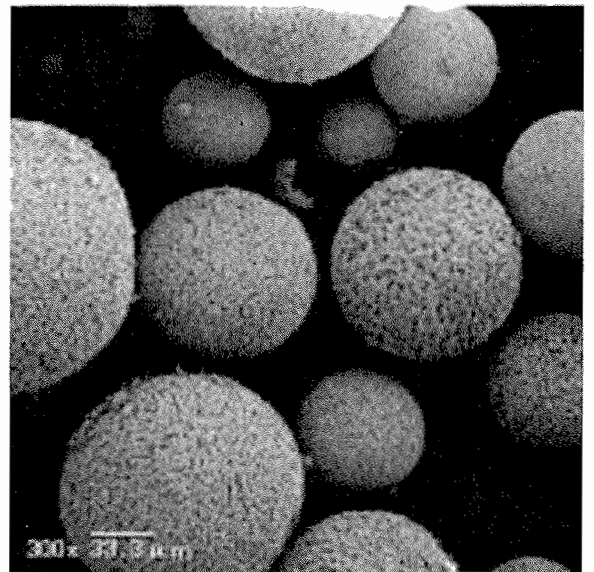
「他の多孔粒子に比べて貫通型のメリットは、

「従来は行き止まりが多く、孔は比較的小さいのが課題だった。」

モノリス構造のため、処理時間は5倍以上のスPEEDで大幅な効率化を実現。精製装置の大型化に応じて充填、量産対応のリアクターやカラムが作製できる。クロマトグラフィーに革新をもたらす媒体になると確信している。16年の液体クロマトグラフィーの国際学会で受賞するなど評価は高く、既に大手化学メーカーとの共同研究が始まるなど、国内外の各方面から高い関心が寄せられている」

貫通型多孔性微粒子

新薬開発に革新



貫通型多孔性微粒子

「どのような戦略で普及を進めますか。」

「ブランド確立を大事にし、さまざまなブランドディングに取り組む。シリカやチタニア、有機・無機など素材展開のほか、分離にとどまらず合成媒体としても有用なことに着目しており、核酸医薬の合成などに力を発揮する。フローリ

「アクターで大量合成ができる点などをアピールする。17年中に量産体制が整い、18年から本格的に市場投入する計画だ」

「製薬関連にとどまらず、市場は広がりそうです。」

「活用すればモノリス構造の薄膜作製ができ、次世代の自動車用電池のセパレーターが期待できる。また、モノリス構造は細胞増殖用の基材としても活用でき、再生医療分野も有望な市場だ」



エマオス京都社長
石塚 紀生氏